

報恩講

桑名別院

ご案内

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

(親鸞聖人『正像末和讃』)

2023年

12月20日(水) ~ 23日(土)

真宗大谷派 (東本願寺)

桑名別院 本統寺

〒511-0073 三重県桑名市北寺町47番地

TEL (0594)-22-0652

FAX (0594)-22-0681

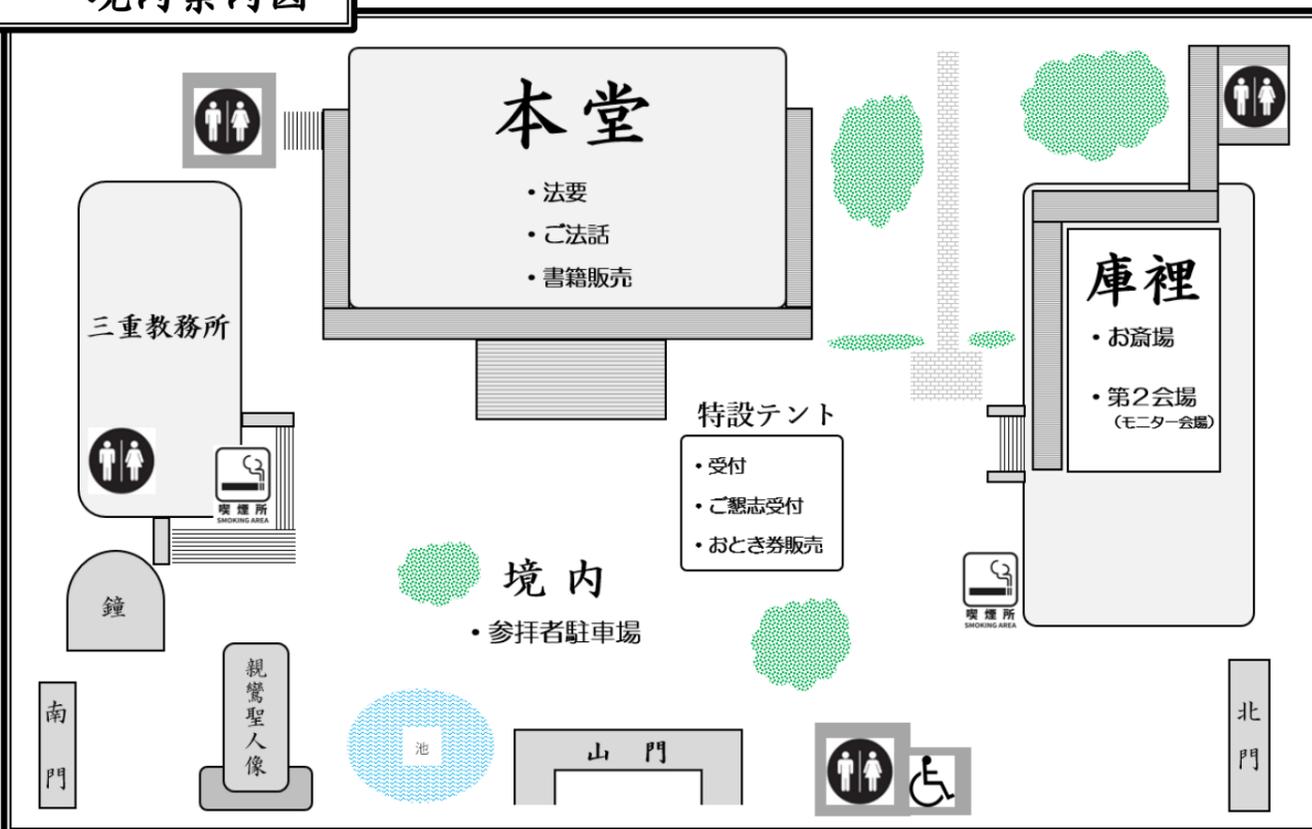
URL <http://mie-betsuin.com/>

ホームページ QRコード →



桑名別院 境内案内図

※駐車場は境内以外にもございます。案内係の誘導に従ってください。



吹き流しについて

ご寄付により、法要をお知らせする吹き流しのポールを境内に竣工しました。吹き流しは、本堂周りの「五色幕」や「仏旗」と同様に、各色〔五色と玻璃色(五色の映りによって表す透明な色彩)〕によって六金色の光明、仏陀の体や智慧を表しています。

	緑	頭髮	定根 (じょうこん)	心乱れず力強く生き抜く状態
	黄	身体	金剛 (こんごう)	豊かな姿で確固とした揺るぎない性質
	赤	血液	精進 (しょうじん)	大いなる慈悲の心で人々を救済しようとする止まない働き
	白	仏歯	清浄 (しょうじょう)	清純なお心で諸々の悪業や煩惱の苦しみを清める説法
	紫	袈裟	忍辱 (にんにく)	あらゆる侮辱や迫害、誘惑に耐えて怒らない様子
	玻璃	輝き	光明 (こうみょう)	

全日本仏教会 HP より

お斎について

会場：庫裡 / 時間：10時30分～13時00分

「お斎(おとし)」とは元々、一日一食とされた元来仏教の出家者が午前一度のみいただく食事のことをいいます。現在では各寺院・御門徒宅での仏事の際に共に食事をする中で、人と人のつながりや信仰を確かめ合う場として引き継がれてきました。

このたび、感染対策を講じながら執り行いますので、従来のお膳での提供ではなく、味御飯を主としたお弁当形式とさせていただきます。また、お味噌汁(桑名別院報恩講伝統の味付け)もご用意いたしますので、是非ともお召し上がりください。

※「お斎券」をお持ちの上、庫裡までお越しください。

○「お斎券」について

報恩講懇志(1,000円以上)への御礼として「お斎券」をお渡しさせて頂いております。桑名別院、お手次の寺院、もしくは当日受付にて志をお納めください。



12月20日 水

音楽法要 (三重教区合唱団「ひかり」)



報恩講初速夜に先立ち、報恩講をお迎えする慶びと宗祖の恩徳を仰ぎ「音楽法要」をお勤めします。
この音楽法要は、本山での宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を縁として制作された新美徳英氏の音楽法要曲を用います。この法要曲は、同朋唱和により、僧侶・門徒が共に唱和できるよう編成されています。
どうぞ一緒に唱和ください。

法話 尾畑潤子 (員弁組 泉稱寺 衆徒)

初速夜

正信偈 真四句目下
念仏讃 淘八
五遍讃 彌陀成仏ノコノカタハ 次第六首
回向反讃 我說彼尊功德事
文向 大坂建立 (四帖目第十五通)

法話 尾畑潤子 (員弁組 泉稱寺 衆徒)

初夜勤行

御伝鈔 上巻

正信偈 草四句目下 同朋奉讃式
御伝鈔 長澤隆司 (輪番)

12月21日 木

初晨朝

正信偈 草四句目下 (同朋唱和)
念仏讃 淘三
回向讃 彌陀成仏ノコノカタハ 次第六首
文向 願以此功德 (三ヶ条 (四帖目第六通))

初日中

引き続き 法話 員弁 暁 (別院責任役員)
念仏偈 真四句目下
五遍讃 淘八
回向反讃 光明月二勝過シテ 次第六首
文向 願以此功德

法話 田代俊孝 (員弁組 行順寺 住職)

中速夜(楽)

正信偈 真四句目下
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
五遍讃 十方微塵世界ノ次第五首
回向反讃 彌陀ノ名号トナヘツ、六首目
文向 世尊我一心 附物
中古已来 (四帖目第五通)

親鸞聖人讃仰講演会



講師 藤嶽 明信 (大谷大学名誉教授)
講題 「心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す。」
三重教区三講組 敬善寺衆徒
大谷大学大学院博士課程(真宗学) 満期退学。大谷大学教授。大谷大学名誉教授。現在、三重教学研究室長。
【著書】『本願念仏の開闢』『選択本願念仏集』講讀『蓮如上上人―親鸞聖人の教えに生きた人―(共著)』『ブツダと親鸞―教えに生きる―(共著)』『いすれも東本願寺出版』

初夜勤行

正信偈 草四句目下 同朋奉讃式
御伝鈔 下巻 拝読者 鈴木 勘吾 (教区准堂衆)

12月23日 土

結願晨朝

正信偈 真説 淘八
念仏讃 南無阿彌陀仏ノ回向ノ 次第六首
五遍讃 我說彼尊功德事
回向反讃 驚聖人 (三帖目第九通)

帰敬式 (受付午前8時より)



引き続き 法話 長澤隆司 (別院輪番)
帰敬式は、「おかみそり」として親しまれ、お釈迦様の教えを依りどころとして人生を歩んでいく真宗門徒としての大切な儀式です。
おかみそりを受けて、仏・法・僧の三寶に帰依することを誓い、仏弟子としての名告りである「法名」をいただきます。

法話 池田勇諦 (桑名組 西恩寺前住職)



東海同朋大学(現・同朋大学) 仏教学部卒業
大谷大学大学院博士課程満期退学。
元同朋大学学長。同朋大学名誉教授。

結願日中(楽) 大谷浩之 鍵役御参修

伽陀 稽首天人 附物
登高座 若非釈迦 附物
式嘆徳文 世尊説法 附物
念仏偈 直入弥陀 附物
文類偈 草四句目下 附物
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
回向讃 三朝浄土ノ大師等 次第三首 附物
願以此功德

報恩講

報恩講は、宗祖親鸞聖人の御祥月命日を縁として勤まる法要です。真宗門徒にとっては一年でもっとも大切で中心となる仏事として勤められてきました。
報恩講は親鸞聖人滅後、門弟たちが親鸞聖人の御命日にお勤めをしたことに始まります。宗祖三十三回忌の際には、本願寺第三代覚如上人が『報恩講私記』(式文)をお作りになって法要の次第を調えられ、後に覚如上上人の子・存覚上人が『歎徳文』をお作りになって法要の次第に加えられました。そして第八代蓮如上上人の頃には各地の寺院・道場でも広く勤まるようになりました。
思えば、私たちが生きていくうえには親の恩や師の恩など、いろいろな恩があります。それぞれ大切なことです。報恩講の恩とは、なにより親鸞聖人がいただかれた念仏の教えに遇い、自らが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に報謝し、いよいよ親鸞聖人が明らかにされた真実のみ教えを聞き、共に念仏申す身となっていくことを誓うことが報恩講を勤める大切な意味なのです。

親鸞聖人讃仰講演会

三重教区の教学の振興と教化の推進を図るため「三重真宗教学学会」と共催し、二〇一七年より毎年報恩講にて開催しています。今年度は、真宗学の専門である藤嶽明信先生より「心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す。」と題し、御講演いただきます。

御伝鈔拝読

『御伝鈔』は正式には『本願寺聖人伝説』といい、本願寺第三代の覚如上人が撰述された絵巻物です。これは、宗祖親鸞聖人の伝記として、最初のものであります。

毎年寺院の報恩講では、四幅(または二幅)の『御絵伝』が本堂の内陣余間に掛けられ、『御伝鈔』が拝読されてきました。
桑名別院報恩講では御伝鈔を20日の速夜後に上巻が、翌21日の速夜後に下巻が拝読されます。

雅楽(附楽)

浄土を表現する荘嚴の一つに雅楽があります。如来から我々にかけての願いの響きを表現しています。
桑名別院報恩講では三重教区を中心とする楽僧によって法要式中所作や声明旋律に合わせて奏でられます。

本山鍵役御参修

門首を補佐するとともに、本山御影堂の親鸞聖人御真影を安置するお厨子の御輪(かぎ)の管理にあたる方が「鍵役」です。鍵役に法要に御出仕いただくことを「御参修」といいます。
桑名別院報恩講では、毎年、22日の結願速夜と23日の結願日中(御満座)に御参修いただきます。
本年は、大谷浩之鍵役(信悟院殿)に御参修いただきます。

登高座

登高座は、その法要の導師が、尊前において法要の趣旨・願い(表白)を述べるもので、報恩講においては『報恩講私記』『歎徳文』の拝読のために行う作法です。導師は、楽あるいは伽陀で登壇し、焼香、三礼(三帰依)のちに拝読を始めます。拝読後は楽によって復座します。



中晨朝

正信偈 草四句目下 (同朋唱和)
念仏讃 淘三
回向讃 彌陀成仏ノコノカタハ 次第六首
文向 願以此功德
御伝鈔 毎年不闕(三帖目第十一通)

引き続き 法話 片山寛隆 (別院責任役員)

伽陀 稽首天人 附物
登高座 若非釈迦 附物
式嘆徳文 世尊説法 附物
念仏偈 直入弥陀 附物
文類偈 草四句目下 附物
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
回向讃 生入苦海ホトリナシ 次第四首
願以此功德

法話 田代俊孝 (員弁組 行順寺 住職)

大谷大学大学院博士後期課程満期退学。
カリフォルニア州立大学客員研究員、
同朋大学文学研究科長などを経て現職。
ヒール医療団代表。
仁愛大学学長。同朋大学名誉教授。
三重真宗教学学会会長。

大谷浩之 鍵役御参修

法話 田代俊孝 (員弁組 行順寺 住職)

正信偈 句切 附物
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
五遍讃 五十六億七千万 次第六首
回向反讃 世尊我一心 附物
御伝鈔 願以此功德

結願晨朝

正信偈 真説 淘八
念仏讃 南無阿彌陀仏ノ回向ノ 次第六首
五遍讃 我說彼尊功德事
回向反讃 驚聖人 (三帖目第九通)

引き続き 法話 長澤隆司 (別院輪番)

帰敬式は、「おかみそり」として親しまれ、お釈迦様の教えを依りどころとして人生を歩んでいく真宗門徒としての大切な儀式です。
おかみそりを受けて、仏・法・僧の三寶に帰依することを誓い、仏弟子としての名告りである「法名」をいただきます。

法話 池田勇諦 (桑名組 西恩寺前住職)

東海同朋大学(現・同朋大学) 仏教学部卒業
大谷大学大学院博士課程満期退学。
元同朋大学学長。同朋大学名誉教授。

大谷浩之 鍵役御参修

結願日中(楽) 大谷浩之 鍵役御参修

伽陀 稽首天人 附物
登高座 若非釈迦 附物
式嘆徳文 世尊説法 附物
念仏偈 直入弥陀 附物
文類偈 草四句目下 附物
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
回向讃 三朝浄土ノ大師等 次第三首 附物
願以此功德

音楽法要 (三重教区合唱団「ひかり」)

報恩講初速夜に先立ち、報恩講をお迎えする慶びと宗祖の恩徳を仰ぎ「音楽法要」をお勤めします。
この音楽法要は、本山での宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を縁として制作された新美徳英氏の音楽法要曲を用います。この法要曲は、同朋唱和により、僧侶・門徒が共に唱和できるよう編成されています。
どうぞ一緒に唱和ください。

法話 尾畑潤子 (員弁組 泉稱寺 衆徒)

初速夜

正信偈 真四句目下
念仏讃 淘八
五遍讃 彌陀成仏ノコノカタハ 次第六首
回向反讃 我說彼尊功德事
文向 大坂建立 (四帖目第十五通)

初夜勤行

正信偈 草四句目下 同朋奉讃式
御伝鈔 上巻 拝読者 長澤隆司 (輪番)

初晨朝

正信偈 草四句目下 (同朋唱和)
念仏讃 淘三
回向讃 彌陀成仏ノコノカタハ 次第六首
文向 願以此功德 (三ヶ条 (四帖目第六通))

初日中

引き続き 法話 員弁 暁 (別院責任役員)
念仏偈 真四句目下
五遍讃 淘八
回向反讃 光明月二勝過シテ 次第六首
文向 願以此功德

法話 田代俊孝 (員弁組 行順寺 住職)

中速夜(楽)

正信偈 真四句目下
念仏讃 淘八 三重念仏 附物
五遍讃 十方微塵世界ノ次第五首
回向反讃 彌陀ノ名号トナヘツ、六首目
文向 世尊我一心 附物
中古已来 (四帖目第五通)

親鸞聖人讃仰講演会

講師 藤嶽 明信 (大谷大学名誉教授)
講題 「心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す。」
三重教区三講組 敬善寺衆徒
大谷大学大学院博士課程(真宗学) 満期退学。大谷大学教授。大谷大学名誉教授。現在、三重教学研究室長。
【著書】『本願念仏の開闢』『選択本願念仏集』講讀『蓮如上上人―親鸞聖人の教えに生きた人―(共著)』『ブツダと親鸞―教えに生きる―(共著)』『いすれも東本願寺出版』

初夜勤行

正信偈 草四句目下 同朋奉讃式
御伝鈔 下巻 拝読者 鈴木 勘吾 (教区准堂衆)

引き続き 法話 長澤隆司 (別院輪番)

帰敬式は、「おかみそり」として親しまれ、お釈迦様の教えを依りどころとして人生を歩んでいく真宗門徒としての大切な儀式です。
おかみそりを受けて、仏・法・僧の三寶に帰依することを誓い、仏弟子としての名告りである「法名」をいただきます。